

新入生対面式

先月12日、新入生対面式がありました。初めて全校生徒が顔を合わせ、教職員の紹介や各学級のブロック割抽選などが行われました。対面式の開会にあたり、校長のあいさつで、私は1年生の先輩となる2・3年生の生徒たちに『できないことと、しないことは違う。新1年生は、初めての中学生としての経験で、何もわからないことばかりです。だから、「しない」のではなく「できない」のだから、あなた方が自ら手本を示してほしい』という話をしました。また、新1年生には『小学校とは違って、教科により教える先生が違うので、早く慣れてほしい。そして、困ったことがあれば、話しやすい先生に相談してほしい』と伝えました。

また、直方三中は、『生徒が動かす直方三中』を目指していることも付け加えました。教師がリーダーシップをとり生徒たちをまとめる学校の在り方では、生徒たちはなかなか自立しません。生徒たちに任せることで、様々な失敗を繰り返すことでしょう。その反省のもと次への目標ができるのです。その立ち上がる手助けをするのが我々教師の役割だと考えています。そのことを意識しながら、成長の源を生徒たちに教え伝えていきたいものです。

ふれあい学級

1年生は、4月17日～19日の3日間、ふれあい学級で「福岡県立社会教育総合センター」に行きました。このふれあい学級のスローガンは『絆～協力・責任・思いやり～』でした。つまり、全員が「協力」し、一人一人が「責任」をもち「思いやり」のある行動をして、1年生全体の「絆」を深めようということです。この絆を深めることが、今後の中学生としての3年間で有意義なものにするか否かを左右します。

ふれあい学級の3日間、生徒たちは教職員の話をよく聞いて、本当に頑張っていました。絆も深まったことだと思います。帰校後、ふれあい学級で学んだことを学校生活で活かそうとする生徒たちの姿がとても初々しく、また、嬉しく思っています。

大人の社会でも同様ですが、みんなが「絆」を深めれば、コロナ禍の時代に、今何をすべきか、今やるべきではない行動は何か、よく見えてくると思います。

